

令和4年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立北灘小学校

1 自己評価書

教育目標	「ふるさとを愛し、心豊かに、生き生きと活動する児童の育成」 スローガン「輝く瞳 大好き 北灘！」					
基本方針	北灘地区の文化と伝統、地域人材を生かし、ふるさとに愛着を持ち、心豊かに生き生きと活動する児童の育成を目指して、保護者や地域と共に歩む学校づくりを推進する。					
本年度重点目標	①豊かな知識・技能の習得と想像力を高める教育の推進②多様な人との協力的な活動を通して、個のよさと可能性を伸ばす。③児童が健康で安全に過ごし、心身ともに安心して学校生活を送ることができる環境を整える。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A A	A
	②	授業改善	主体的な学びの実現に向けて授業改善に努めた。(一斉教授型の授業スタイルからの脱却)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B	B
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、主体的に学びや個に応じた学びの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
	③	家庭学習の充実	授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A
	④	読書活動の充実	読書に対する関心意欲を高め、読書習慣の定着に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
	<b>(成果と課題)</b> ○ iPadの活用、家庭学習(自主学習含む)や読書の充実、ふるさと学習については、全校で共通理解して実践できた。 ○ ICTを活用した授業を心掛け、主体的・対話的な学習の機会が増えた。 ○ 漢字検定、算数検定の合格者が増え、基礎的・基本的な知識・技能を伸ばすことができた。 △ 授業で「めあて」は明示できたが、「振り返り」の時間が取れないことがあった。					
	<b>(改善策等)</b> ○ 読解力・思考力・表現力を伸ばすため、日記や作文、算数科の図や説明、理科や社会の記述問題等、思考過程を重視した指導を粘り強く継続する。 ○ 振り返りの時間を週2回必ず確保する。					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間づくりに努め、心の通う対人交流が深まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B A B	B
			いじめの未然防止、早期発見、解決に向けて組織的に取り組むとともに、地域・保護者に対して、「学校いじめ防止基本方針」の周知に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B A B	B
	③	基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B A A	A
	④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・児童生徒アンケート ・児童生徒の姿	A A	A
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・児童生徒アンケート ・児童生徒の姿	A	
	<b>(成果と課題)</b> ○ 児童が地域の中で安心して活動し、地域の人から褒められることで自信につながった。 ○ 人権・同和教育懇談会やいじめSTOP等を通じて考えを深め、よりよい人間関係を築こうとする意識が高まった。 △ 生徒指導上の事例について、もっと共通理解を図るとよい。 △ 教育相談で一人一人の声を聞くことができたが、個別の対応が難しかった。					
	<b>(改善策等)</b> ○ 月に2週間の教育相談を5日間確保し、業間に教育相談の時間を設定するなどして、児童の悩みを聴き、相談後の様子をよく観察する。 ○ 月1回のチェック週間等を利用し、家庭に児童が頑張っていることを伝え、情報交換をする。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B B	B
	②	働きやすい環境づくり 業務改善に向けて自校の課題を洗い出し、慣例にとらわれることなく積極的に改善に努めた。	・教師アンケート	B	B
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童の体力や教職員の負担を考慮し、放課後や休日の練習計画を見直すことができた。</li> <li>○ 事務処理や諸会議の効率化を図り、見直しを持った立案や連携・協働により、超過勤務の削減ができた。</li> <li>△ 効率的に行事の準備ができるよう、準備計画の見直しが必要である。</li> <li>△ 業務改善への意識付けは図れたが、具体的な対策があまりできなかった。</li> </ul>					
<p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 行事の反省をしっかりと行い、来年度の計画に生かす。</li> <li>○ 行事や各種活動について、教育的意義の高いものは充実を図るとともに、前例にとらわれず精選して実施する。</li> </ul>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めるとともに、全職員の共通理解の下、学校運営協議会の活性化を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A
	②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
・地域アンケート			A		
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総合的な学習の時間で、地域コーディネーターが連携を図り、町探検や養殖の見学、防災講座等、どの学年も充実した体験活動ができた。</li> <li>○ ホームページ、学校だよりや学級だよりで、学校の取組や児童のよさを積極的に伝えることができた。</li> </ul>					
<p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者や地域の方々との密な連携を継続する。</li> </ul>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満